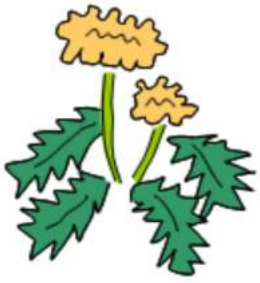
たんぽぽ

NO.429
R5年5月1日
-発行-
〒869-1217
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
☎096-293-8100



令和5年度事業計画（一部抜粋）

理事長　松田　健

少しずつ光明が差しています。コロナの影響が緩和しています。今年度は早々に家族会及び家族連絡会が再開されると思います。（5月13日に実施予定です。）

親御さんは早く施設内に入りタンスの中をみてみたいとおっしゃっています。我が子がどんな生活をしているか見てみたいと。親御さんがそのように思っておられるということは支援者の視点ではなかなか気付けません。私もそうです。安易に用いられている「寄り添う」という言葉の真意を理解する鍵となると思います。

侵略行為の報道も当たり前となり、日々何も感じなくなっている私たちがいます。トルコの地震もしかりです。今後どんな世の中になるのでしょうか。コロナの影響は薄れてくると思います。日常へ移行していきたいと思います。しかし、戻れないこともあるかと思います。見定めて、議論しながら進めて行きたいと思います。皆さんの力が必要です。いま隣の席にいる方とはすごい確率で隣り合っています。手を取り合って利用者さんのため、三気の会のために頑張っていただけたならと切に願います。

国内に目を向けると、高齢者や障がい者を標的とする詐欺事件の増加、孤立死の増加、身近に相談する人がいないといった孤立や孤独の無縁社会化の問題の顕在化など。地域で困っている人が急増しています。家庭での虐待、DV、貧困の問題など多くの人が苦しんでいます。老々介護、ヤングケアラー、親子介護、8050問題、セルフネグレクトなど枚挙にいとまがないほどです。

障がい福祉に関しても、長時間の閉じ込め、暴言、暴力行為など毎日ではないにしろ常に紙面をにぎわしています。福祉の施設で働くものとして考えさせられることが多いのではないでしょうか。福祉についてより考える一年にしたいと思います。三気の里の親御さん（家族）はとても協力してくれます。熱心です。心遣いをいっぱいしてくれます。当たり前と思っていることが実はそうではないことは多くあります。利用者、家族について、まず聞いて、知って、理解することが必要です。いろんなケースについて家族とともに考え、話し合っていく施設でありたいと思っています。みんなで力を合わせて進んでいきたいと思います。今年度も何卒宜しくお願い致します。

年賀状

平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。この度〇〇〇は、虚礼廃止の流れや近年の自然環境意識の高まり、デジタル環境へ移行を鑑み、年賀状によるご挨拶を控えさせていただくことと致しました。

今年このようなハガキが何枚か施設に届きました。時代の変化を感じました。

私は、大学が京都だったので（京都大学ではありません）卒業後地元の熊本へ帰りました。ほとんどの方とはそれ以来三十年以上会っていません。それでも年賀状のやりとりをしている方が数名います。熊本地震の時、電話やハガキでお見舞いの連絡がありました。とても嬉しかったです。励まされました。年賀状のやり取りがなかったら、こういうつながりもなかったことと思います。

機関誌はどうされるのでしょうか。楽しみにしている機関誌があります。存続されることを願っています。デジタルの文書は味気ないものです。人付き合いは面倒だと思えることが実は一番大事です。

5月

1班「ほんわかとした気持ち」

うららかな日差しが皆さんを包み込むような今日この頃ですが、コロナウイルスも少しずつ落ち着いて、三気の里でも利用者の皆さんが楽しみにされている帰宅が始まりました。帰宅の日が近づくと、あと何日なのか、1、2、3、4…と30まで数を数えて安心される利用者さんがおられます。「お母さん車でお迎え!」と話され、とても楽しみにされています。「お家で何をするのですか？」と尋ねると「ゴロゴロ」と答えて下さいます。私は、「ゴロゴロ」と言う言葉がほんわかして嬉しくなります。私も3人の子供がいて、たまに帰って来るとゆっくりして欲しくて、何でもしてあげたくなります。お家でゴロゴロって一番嬉しいですよね。

春と共に利用者の皆さんの所にも、幸せな日々が続きますようにと改めて願い、リラックスして日々過ごすことができるようにお手伝いをしていきたいと思います。

支援員　中村　照美

2班　「表彰式」

昨年度の6月に入職させて頂き、まだまだ支援力不足を痛感している中、4月には新任式と新担当発表が行われました。2班では担当発表の前に前年度担当より利用者の皆さんへ表彰状授与がありました。内容としては1年間頑張られたことを表彰するというものと、担当との2ショット写真でした。表彰状を受け取られた利用者さんの反応は様々で、まじまじとした顔で表彰状を見つめる方、満面の笑みを浮かべてらっしゃる方・・・。その中でも一番印象に残ったMさん。スタッフから名前を呼ばれた時にはすでに目には涙が。表彰状を読み上げられている時にはこらえ切れず顔を真っ赤にして涙を流しておられました。約3年間、コロナ禍で何か月も帰宅が出来ない時期もあり、不安やストレスを感じられている中、頑張ってきたことを評価してもらえたことや、きちんとスタッフが気付いてくれたという安堵感からの涙ではないかと感じました。利用者の皆さんの些細な変化にも気付ける力、利用者の方の努力に気付き、受け止め褒めることの大切さをMさんの涙を見て改めて感じた令和5年度の始まりでした。

支援員　古田　恭

おめでとうございます!

３班　「新しい出会い」

春は、出会いと別れの季節です。喜び・悲しみ・期待・寂しさいろいろな気持ちを胸に抱き、新しい季節を迎えます。4月より3班へと異動となり今までの環境とは異なって作業の進め方、利用者の皆さんとの関わり方等、一から学んでいます。3班の作業の一つに野菜の袋詰め作業があります。八百屋さんより玉葱、ジャガイモ等の商品を朝受け取り、袋に詰め午後納めるという作業です。作業時間は限られており、一刻を争う作業です。商品が作業棟に着くと車から商品を降ろす係、スタッフが量った商品を袋に詰める係、詰めた袋をテープで止める係と流れるような工程です。「こんなに速くできるんだ」「正確性が凄い」普段の生活の顔と違い、新たな一面を発見し、多方面に接していかないと解らないこともあるのだと感じました。新しい状況はストレスがかかりやすい一方で、新しい自分や人との出会いがあったり、成長のチャンスであったりします。新しい出会いに感謝し、利用者の皆さんの色々な顔を発見していければと思います。

支援員　久米　善久

4班　「陰に寄り添う」

コロナウイルスが流行した後に入社した私にとっては、帰宅がほとんどない状態が通常であり、そんな状況で少しでも全ての利用者の皆さんにとって帰宅の代わりとなる余暇、楽しみを提供することが、私たちがやるべきことでした。現在、制限されていた帰宅が少しずつですが本来の形に戻りつつある中、私が所属する4班の利用者さんのほとんどが帰宅はありません。帰宅の発表があった際に喜んでいる利用者さんとは対照的に、帰宅の無い利用者さんのどこか寂しそうで羨ましそうな表情を見る度に、心が苦しくなります。

残された利用者の皆さんにとっての「特別」、「楽しみ」とはなんでしょうか。全体的な年齢が上がるごとに更に帰宅が難しくなってくる方が増えてくると思います。そんな皆さんの寂しさ、心細さに寄り添い、一人ひとりが特別な存在であるという事を伝え、笑顔で三気の里での生活を送ることが出来るよう、それぞれの楽しみ、生きがいを見つけ取り組んでいくことが私たちのやるべきことであると感じています。

支援員　植野　希

5班　「素敵な景色」

5班では週に一度利用者の方と作業の納品に行きます。納品の後は時間に応じてドライブをしながらその時季のきれいな景色を見たり、飛行場へ行き離陸や着陸を見たりと過ごすことが多いです。先日、飛行場へ行ったときは着陸した飛行機を見てJさんが「飛行機！」と言われ手を振っていました。つられて利用者の皆さんも手を振って和やかな時間を過ごすことが出来ました。また別の日に大津つつじ園に行き、色とりどりのつつじを見て、どの色が一番好きかを話し合いながら楽しくドライブに参加することができました。これからも皆さんと一緒に様々な景色を見て行きたいなと思います。

支援員　石原　佳奈

療育雑記

「制度と情熱のあいだ」

部長　松本慎太郎

Aさんは70歳の方。療育手帳、身体障害者手帳をお持ちで、様々なトラブルにより施設などを7ヵ所以上転々としてきた過去があり、三気の里に入所されて25年以上経ちます。小学生の時、屋根から落ちて腰椎圧迫骨折をしたことにより右半身に後遺症が残っています。その他にも様々な病気を持ち、精神的にも、身体的にも影響を及ぼしていることがあります。50歳を過ぎてから徐々に身体的な衰えが見え始め、一人での歩行も支えが必要になってきました。また転倒、骨折を起こしたこともあって、その衰えのスピードはあがったように思います。

Bさんは67歳の方。統合失調症を発症し精神科に入院したことがあり、様々なトラブルにより警察にもお世話になったこともあります。三気の里に入所されて20年以上になり、トラブルがあると施設から飛び出そうとされたことは数えきれないほどありました。近年は水頭症により運動機能に大きな影響を及ぼし、転倒、骨折も相まって、現在は一人で歩行することはほぼ困難になっています。

高齢化に伴い、心身機能の維持増進のために、日常的な取り組みが必要だと思います。さらには、障がい特性や病気に応じた専門的な見解や知識も必要となります。障がい者支援施設に入所していると、介護保険のサービスを受けることはできないので、諸々の取り組みは施設内で、施設職員が行わざるを得ません。介護福祉士の資格を所持しているスタッフは沢山いますが、殆どのスタッフは高齢関係で働いた経験などなく、活かせていないのが現状です。三気の里の入所者の平均年齢（現在は51歳）が35歳を過ぎて、高齢化対策委員会を設置し、問題提起、高齢化対策の取り組みを行い、外部からその道のプロをお呼びして介護予防の実践、講義を月に1回「げんき隊」と称し行ったことが三気の里の具体的な対策のスタートだったと思います。特にAさん、Bさんの担当になった若いスタッフが、日々、体操や散歩などの運動をできるだけ取り入れつつ、色んな所に電話して掛け合って汗水垂らして動いてくれました。理学療法士の方に訪問してもらい施術やアドバイスを受けたり、町のスポーツジムに行きインストラクターの方にアドバイスを受けながらリハビリ的な運動を取り組んだりしたこともありました。私たちは介護や介護予防に関して力量が不足しています。でも、どうにかできないか、何か抜け道はないかと、奮闘しています。

そんな中、病気も障がいも理解した上で、実費でリハビリを利用できる事業所を見つけることができました。町にも相談し、理解して頂きました。週2回、事業所の送迎でリハビリを受けることができています。リハビリが目的でしたが、外に出ること、人と関わることで、更なる楽しさ、嬉しさも感じられ、生き生きとした姿を見ることができています。施設は家ではありません。居心地のいいものではありません。例え家であっても私達がコロナになって自宅静養していたちょっとした期間でも外に出られなかったことは苦しかったと思います。施設に入所されている利用者の皆さんはそのような状態を何十年とされていると思います。リハビリなどに限らず、生活の幅、質を上げるためにも、他のサービスを受けることもあってもいいのではと思わされました。入所施設として法令を遵守し、施設としてやるべきことはやって、柔軟な発想で、柔軟な行動で、高齢化、重症化、重度化に対し利用者さん一人一人のことを考え、実践できるようになっていきたいと思います。

G工便り

「生活を豊かに」

世話人　藤本　優香

この3年程コロナの感染防止対策で制限が多くなり、今までのようにいかなくなったことが多かったかと思います。しかし、出来なくなったことばかりではなく、出来るようになったこと、取り組めたことも沢山ありました。

利用者さんの余暇の過ごし方で、今までは、ドライブや買い物、外出などが多かったのですが、室内での活動を充実させようとスタッフも色々と考え提案してきました。

運動面は、ラジオ体操や踏み台昇降運動、散歩を行っています。

踏み台昇降運動も、最初は、身体の動かす順番から声を掛け、手を添えながら10回～30回をされていましたが、今では一人で数えながら百回される方、スタッフが数を数えると止まらず50回連続で出来る方と身に付いてこられ、楽しそうに身体を動かされています。

生活面では、洗濯物たたみや掃除も利用者さんと一緒に取り組んでいます。余暇活動では書き取りや縫い物、ぬり絵、パズル等、最初はスタッフの提案からですが、今では意欲的に楽しんでされている姿も見られています。そのような活動が利用者さんの生活を張りのある豊かなものにすると思い取り組んでいます。

課長便り

「努力を認め、評価する」

支援課長　岩田　幸児

利用者の皆さんは日々作業に取り組まれています。各作業班においても、利用者の皆さん個々によっても、作業内容や工程は違ってきます。その中で、私たち支援員はついつい効率や生産性を求めてしまいがちになりますが、実は生産性や効率よく作業を進められるようになるまでのプロセスが大切だと思っています。「努力しても上手くいかない事もある」「結果が伴わない事もある」でも、取り組む中で皆さんが努力されたことを認め、次に上手くできるための手段や方法を一緒に考え伝え、努力に見合った結果や成果が出るように導くことが支援だと思います。私たち支援員の仕事も同じで、利用者の皆さんとの関わりの中で、いつも上手く関われることばかりではありません。悩むこともあります。そんな時は、支援員間で相談し、支援の仕方や方法を考え、より良い支援に繋げられるように一緒に考える。そのプロセスを大切にしながら、利用者の皆さんと支援員がともに成長出来るようにしていきたいと思います。

人権擁護委員会

「想いをかたちにする」

業務課長　本田　誠

委員長として、今年で3年目を迎えます。委員会のルールとして、〇〇しないなどの消極的権利擁護の観点ではなく、〇〇するといった肯定的で前向きな積極的権利擁護の観点で活動すること。周囲の状況に左右されることなく、先ずは自分自身が利用者さんひとり一人と向き合い、権利擁護について学習、啓発することを目標に取り組んでいます。2年が経過した今では、三気の里全体に良い雰囲気が漂っていると感じています。活動のテーマとして、一昨年は「自分を整える」、昨年は「利用者の心の声を理解する」、そして今年は「想いをかたちにする」を掲げさせて頂きました。三気の里の強みは、利用者さんに対する想いの強さであると捉えています。その想いを、一方通行になることなく、長期的な視点を持ち合わせながら利用者さんに届けて行きたいと思います。改めて、「のん気、こん気、げん気」を掲げた田中稔先生に一度お会いしたかったと思う今日この頃です。

5月スケジュール

1(月)開設記念日37年目
2(火)芸術クラブ
8(月)歯科実習(BeTREE)～10日
13(土)家族連絡会　チャリティボウリング
15(月)歯科実習(4班)～17日
17(水)誕生会
18(木)嘱託医来診
19(金)ゴールドクラブ　アンパの日
20(土)陣内食堂
22(月)歯科実習(アンパ)～25日
25(木)さんきマーケット
26(金)保健師巡回・衛生委員会
27(土)イベント食
29(月)歯科実習(4班)～31日
30(火)三気の会理事会
毎週月曜日　訪問理容サービス
毎週火曜日　BeTREE役場販売
BeTREE
＜営業時間＞
8:00～18:00

betree314

看護師便り

「頭痛への対応」

看護師　小﨑　栄之

初夏を迎えるこの時期は、気圧の変動が激しい時期です。気圧の変化が起こると、自律神経が乱れやすくなり、「頭痛」や「倦怠感」など、さまざまな不調が起こりやすくなります。頭痛の原因はさまざまですが、気圧、強い光や騒音などの外的刺激や寝不足、過労、月経、お酒、煙草などが頭痛の引き金になるといわれています。また、頭痛には、命に関わらない一次性頭痛と命に関わる場合がある二次性頭痛があります。一次性頭痛は、緊張性頭痛、片頭痛、群発頭痛のように繰り返し起こる慢性頭痛です。セルフケアとしては、「ストレスの解消」「リラックス」「軽い運動」「痛いところを冷やす」があります。一方、二次性頭痛は、病気が原因で起こる頭痛で、くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍などがあります。危険な頭痛には、「手足のマヒ、めまい、意識障害を伴う頭痛、突然起こる激しい頭痛、だんだん激しくなる頭痛」などの症状があります。一次性頭痛の場合、鎮痛薬を使って痛みを緩和する方法もありますが、頭痛そのものを治す薬ではありません。医療機関を受診してください。頭痛を軽く考えず、心身の健康のバロメーターとして向き合っていきましょう。

沢山のご厚意
ありがとう
ございます

【寄付】
魚谷 秀文様　金森 保様
田中 満子様　松村 俊介様
宮本 眞一様　清田 栄一様
櫻木 勇夫様　東坂 富士代様
渡邉 正司様　井手上 昌子様
中村 秀隆様
【物品】
前淵 隆子様　赤星 央子様
福永 敬子様　坂梨 清美様
牛島 智子様　小牧 博則様
森川 琇介様　吉田 和信様
西村 真由美様
【後援会ありがとう】
荻迫 和也様　村上 光様
松木 伴良様　森 聡章様
藤野 元嗣様　坂本 哲志様
赤星 一郎様　髙橋 頌慈様
櫨本 貴美子様　青木 まり子様
山下 ちづる様
㈱グリーンロジスティクス 代表取締役 岩崎 浩様
坂本 昭信様　㈲野田石油様
熊本県総合保健センター様
吉田 俊人様　井手上 昌子様
橋本 信子様　興呂木 克昭様
南九イリョー㈱熊本支店様
清藤 節子様　須加原 翠様
田中 慶秀様　山室 誠弥様
児島 清和様　白井 桂子様

【利用者作品展示会開催のお知らせ】
日時：6月19日～30日まで
場所：大津町役場1階フロア
三気の里の作品も展示されます。お時間のある方は足をお運びください。